

## 新潟地震の時は…

- ・新潟地震の際に水が来た
  - ・顕著な液状化が発生した
  - ・舟栄中学校（現 柳都中学校）に約 3000 人の避難者が来た
  - ・旧栄小学校にも多くの避難者が来た
  - ・十四番町の道を挟んで、水が来た所と、来なかった所があった
  - ・バス通りから信濃川の方面は液状化した
  - ・ライフラインの復旧が早く、被害が少なかった
- 地域は、四ツ屋町・西船見の一部であった

## 地域の社会特性

- ・津波被害の危険性が低い高台の A ブロック、河川遡上・液状化・浸水すると水が長期に留るおそれがある地域の混合エリアである B・C・D ブロックに大きく分けられる
  - ・避難受け入れ地域に避難所の柳都中学校がある
  - ・木造住宅が密集しており、火災の危険性がある
  - ・広い道が防火のラインとなる
  - ・高齢化率が高い（41.9%）
- 【平成26年新潟市地区別防災カルテ参照】
- ・標高の高いエリアがあるので避難する場所がある
  - ・老朽家屋や空き家（長屋）が多い

## 地域の被害特性

- ・これまでの避難訓練においては、避難路の混雑は見られなかった
- ・木造家屋が多く倒壊の危険性あり
- ・避難に際しては広い道を中心として避難する

## 各ブロックごとの具体的な避難方法

ブロック	特徴	期待される避難行動	避難目標
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高台の避難者受け入れ地域</li> <li>・一部、避難対策地域を含む</li> <li>・津波の心配があまりないエリア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早さより確実に、集結場所である柳都中まで移動する</li> <li>・倒壊家屋、火災に注意して避難する</li> <li>・A～D共通</li> </ul> <p>柳都中学校グラウンドに地区別に集合＝ブロックで出来るだけ集まるという意識づけし混乱をさける</p>	第1目標：柳都中学校
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・斜面になっていて高い建物があまりない</li> <li>・木造家屋が密集している</li> <li>・河川遡上・液状化・浸水すると水が長期に留るおそれがある地域の混合エリア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高台の A ブロックを目指して移動することが最大の目標</li> <li>・距離があるので、要援護者については地域の高いビル等を活用することを考慮し、それ以外の人は、直接最終避難所へ</li> <li>※途中のビル等に立ち寄るのはあくまでも要援護者のみとする町内会長や民生委員がそのように促すような方向</li> <li>・広い道路を通るようにする</li> </ul>	第1目標：柳都中学校
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・斜面になっていて高い建物があまり無い</li> <li>・河川遡上・液状化・浸水すると水が長期に留るおそれがある地域の混合エリア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高台の A ブロックを目指して移動することが最大の目標</li> <li>・要援護者は地域が決めた避難目標へ、それ以外の人は高台および最終避難所へ（400mくらいで到達）</li> <li>・広い道路を通るようにする</li> <li>・倒壊家屋、火災に注意して避難する</li> </ul>	第1目標：柳都中学校
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・斜面になっていて高い建物があまり無い</li> <li>・河川遡上・液状化・浸水すると水が長期に留るおそれがある地域の混合エリア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高台の A ブロックを目指して移動することが最大の目標</li> <li>・距離も比較的最終目的地の柳都中学校に近い</li> <li>・要援護者が避難できる高いビルもあまり無いことから、早めに全員で直接最終避難所に避難する</li> <li>・広い道路を通るようにする</li> <li>・倒壊家屋、火災に注意して避難する</li> </ul>	第1目標：柳都中学校